

持続可能な社会の実現に向け、課題解決に取り組むことができる内容の充実

「地域のあり方」を考える

地理や歴史での学習を振り返りながら、自分たちが暮らす身近な地域を改めて見つめ直し、地域社会がもつ課題を解決する方法を考察・構想していきます。こうした学習を通じ、公共の精神が芽生え、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度が養えます。

3 地域のルールを考えよう

③地域のルールを考えよう

学習課題？ 効率と公正という観点から、ルールを考えよう。

④ルールをつくってみよう

かんだ市に住むAさんの家は、中学生のひろさんが朝の6時過ぎに家を出ています。ごみ出しの時間は朝の8時から9時です。ごみ出しの時間帯は朝の8時から9時です。Aさんの家は朝の8時から9時の間にごみを出したいのですが、朝の7時から8時の間にごみを出す必要が出てきます。Aさんは、朝の7時から8時の間にごみを出したいのですが、朝の8時から9時の間にごみを出す必要が出てきます。Aさんは、朝の7時から8時の間にごみを出したいのですが、朝の8時から9時の間にごみを出す必要が出てきます。

グループでの話し合いの仕方とルール

- 4-6人のグループをつくる。
- 司会を決める。(今後の話し合い活動の中で、必ず一人一人司会を務める。)
- 全員が発言する。他の人に同じ意見でも発表する。
- 他の人の意見は最後まで聞き、途中で意見をほささない。
- 他の人の意見を否定せずに、自由に意見を出せるように心がける。
- すべての意見を出した後、司会を中心に、共通する意見と対応する意見を整理する。
- 対応案を提案して、グループとしての意見をまとめる。(最終的な決定の方法は、話し合い内容によって異なることに留意する。)

ルールについて学ぶ第1章で、地域の「ごみ収集所」の設置に取り組むながら、身近な地域のあり方について考えます。

← p.30-31

主権者として社会に参画する意識を高めることができる教材・内容

生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚、責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や、持続可能な社会の創造をみざそうとする意欲を高めます。

特設ページ

2種類の特設ページ(さまざまな表現活動を行う「言葉で伝え合おう」/資料を読み深める「読んで深く考えよう」)を中心に、社会の「いま」に鋭くせまることができる、今日的なテーマを豊富に紹介しています。本時の学習と無理なく関連を図りながら、活用することができる紙面構成です。

言葉で伝え合おう

多様な表現活動に取り組みながら、表現力を高めます。

p.68 ▶

貿易がもたらすもの

貿易のメリット

自由貿易と保護貿易

さらにステップアップ

「新しい人権」を考える

忘れられる権利

「読んで深く考えよう」(6テーマ)

- ◆つなげたい、日本の伝統と文化 (1章) p.24
- ◆ともに生きる社会をみざす人々 (2章) p.52
- ◆平和主義のこれまでとこれから (2章) p.76
- ◆貿易がもたらすもの (5章) p.186
- ◆日本の外交の今とこれから (6章) p.198
- ◆持続可能性を妨げる、さまざまな課題 (6章) p.222

多様な表現活動に取り組みながら、表現力を高めます。

さらにもう一段階、活動や考察の深化を促します。

暮らしやすいまちづくりへ

1 暮らしやすいまちづくりへ

学習課題？ 暮らしやすい豊かな社会をつくるために、私たちがどうしたら良いでしょうか。

2 段差がほとんどない歩道

3 手話で通話できる公共電話ボックス(手話フォン)

4 障がいのある人たちがモデルを務めたファッションショー

5 車や空運、バス・タクシーなどのリアリティーの推挙

6 ユニバーサルデザインとはどのような考え方、説明しよう。

7 障がいのある人たちがモデルを務めたファッションショー

8 市民の意見 平等であること、公正であること

社会保障について学ぶ単元で、誰もが暮らしやすいこれからの社会のあり方を、地域での暮らしに焦点化して考えを深めます。

176 第5章 安心して暮らせる社会

「言葉で伝え合おう」(6テーマ)

- ◆「新しい人権」を考える ~ディベート (第2章) p.68
- ◆メディアリテラシーを学ぼう ~情報の入手と活用 (第3章) p.94
- ◆もしも裁判員裁判に参加したら ~シミュレーション (第3章) p.110
- ◆まちづくりのアイデアを提言しよう ~プレゼンテーション (第3章) p.122
- ◆起業にチャレンジしてみよう ~計画の立案 (4章) p.146
- ◆誰もが「生きづらさ」を感じない社会について考えよう ~レポートの作成 (5章) p.178

2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ、考察することができる教材・内容

生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察することができ、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養えます。

「私の提案」作成に向けて

終章(p.228より)では、これまでのすべての学習を活かし、SDGs(持続可能な開発目標)の視点をもって地球規模の課題と向き合い、解決方法を探ります。完成した「私の提案」を、他者との対話によって広げ深めていくことができます。「終章」に向けてすべてのページが有機的につながり、かかわり合いながら学習が進みます。

1 持続可能な未来と私たち ▶ 持続可能な未来を探っていくために

学習課題 2 持続可能な未来をつくるために、私たちに必要なことはどのようなことでしょうか。

SDGsの17の目標は、持続可能な未来をつくるための指針です。それぞれの目標について理解を深めると同時に、それぞれがどのように関連しているかを考えることも大切です。

持続可能な未来の構築は、一人一人の活動や学習、ESD(持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development))といえます。ESDでは、一人一人が自分の生き方や考え方の広がりや深まりを自覚し、未来に向けて大切にしたい見方や考え方を学んでいくことが大切になっています。

「私の提案」作成ナビ 1 四つの視点とは 持続可能な未来をつくるために、まずは「個人と個人」あるいは「個人と社会」のつながりを探ってみましょう(①)。次に、このつながりをつづける方法を探してみましょう(②)。そのために、「個人と個人」あるいは「個人と社会」のつりあいを大切にしましょう(③)。そして、これらの①-③の土台となる、つづきこみを意識してみましょう(④)。

持続可能な未来とは 私たちは、これまでの公民の学習を通して「現代社会」、「政治」、「経済」、「国際社会」のしくみや現状などについて学んできました。その中で、グローバルな視点(地球規模)とローカルな視点(地域)の両方から、持続可能性を妨げるさまざまな課題と向き合ってきました。こうした課題を認識し、公民の学習だけでなく、小学校での学習や地理や歴史の学習、他教科での学習、さらに毎日の暮らしのなかで経験してきたことなどをふまえて、課題の解決に向けて行動する、持続可能な未来の新しい手を目指していきましょう。私たちが目指す持続可能な未来を、次の四つの視点から考えていくことができます。

- ①「つながり」を大切にできる未来
- ②「つづける」ことができる未来
- ③「つりあう」ことで構築される公正な未来
- ④「つづきこむ」ことでさまざまな他者を認める未来

こうした視点を意識しながら、自分自身と社会をどのように変えていってほしいのか、自分なりに考えていくことが大切です。

SDGsの意義 SDGs(持続可能な開発目標)は、17の目標と169のターゲットから構成されています。「地球上の誰一人として取り残さない」ことをスローガンに、先進国も発展途上国も、すべての国が取り組むべき普遍的なものとしてとらえられています。SDGsのDにあたる「開発」(Development)には、経済発展だけでなく、精神的な豊かさや追求していくことも大切になるということです。例えば、持続可能な未来を目指すときに、注目されている考え方の一つに、「エシカル消費」があります。これは、毎日の暮らしの中で、誰によって、どこで、どのように作られているのかわかる製品を購入し、消費しようという考え方で、フェアトレードはその代表的な例です。このように「開発」という言葉には、「持続可能な未来」を考えていく際の大切なヒントが含まれています。

エシカル消費とは 人や地球環境が犠牲になることなく作られた製品を購入することであり、生産者の顔や背景が見える消費のあり方です。貧困、人権、気候変動といった国際社会の三つの発展の課題を、同時に解決するための有効な手段であると考えます。エシカル消費は毎日の買い物を通じて取り組めるので、誰もが今日から始められる社会貢献活動です。

「文化」、「移住」、「ICT」など、SDGsの17の目標には定められていないもの、重視されるべきテーマもあります。こうした「そのほか」の目標にも着目し、自分にとっての「18番目の目標」を探してみることも大切です。

エシカル消費を広げる活動に取り組んでいる若手経営者さん

228 終章 私たちが未来の社会を築く 229 1. 持続可能な未来

p.228-229

第2章の学習と関連する主なSDGsの項目

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 働きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
- ⑬ 平和と公正をすべての人に
- ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう

*「終章」での活動に生かそう。

各章のまとめのページに「SDGs関連コーナー」を設け、その章の学習に関連を示したSDGsの項目を再掲しています。

p.80

good

SDGs ⑤ ジェンダー / ⑧ 経済成長と雇用 / ⑩ 不平等

p.51

本時の各時間の学習内容と関連するSDGsの項目を紹介しています。

公民的分野とSDGs

新しい公民教科書では、『SDGs(持続可能な開発目標)』の17の目標の達成に向けて、いま私たちに何ができるかを大きな柱の一つに据え、構成しています。教科書の中で扱うさまざまな教材とSDGsとの関連が有機的に図られ、これまで以上に深く「持続可能な未来」を意識した学習を進めることが可能です。

公民の学習を始めるにあたって 一人一人が持続可能な未来を築く

「17の目標の学びや理解」

公民の学習を始めるにあたって、17の目標の学びや理解は、公民の学習の土台となる重要な要素です。教科書の中で扱うさまざまな教材とSDGsとの関連が有機的に図られ、これまで以上に深く「持続可能な未来」を意識した学習を進めることが可能です。

「つながりへの気づき」

本題の学習にその先を深めていくには、その前提として「つながり」の重要性を認識することが必要です。公民の学習では、個人と個人、個人と社会、個人と地球とのつながりを意識し、持続可能な未来を築くための土台を築いていくことが大切です。

「つづきこむ」

持続可能な未来を築くためには、個人と個人、個人と社会、個人と地球とのつながりを意識し、持続可能な未来を築くための土台を築いていくことが大切です。

SDGsの17の目標

SDGs(持続可能な開発目標)は、17の目標と169のターゲットから構成されています。

「つづきこむ」

持続可能な未来を築くためには、個人と個人、個人と社会、個人と地球とのつながりを意識し、持続可能な未来を築くための土台を築いていくことが大切です。

I-II

国際社会全体で取り組まれているSDGsを、公民学習全体に関わる大切な視点として、巻頭で紹介しています。

持続可能性を妨げる、さまざまな課題

持続可能な未来を築くためには、持続可能性を妨げるさまざまな課題を認識し、解決方法を探ることが大切です。

「エシカル消費とは」

人や地球環境が犠牲になることなく作られた製品を購入することであり、生産者の顔や背景が見える消費のあり方です。

「持続可能性を妨げる、さまざまな課題」

持続可能な未来を築くためには、持続可能性を妨げるさまざまな課題を認識し、解決方法を探ることが大切です。

「エシカル消費とは」

人や地球環境が犠牲になることなく作られた製品を購入することであり、生産者の顔や背景が見える消費のあり方です。

p.222-223

終章に入る前に、国際社会が抱える課題をもう一度振り返って整理し、培ってきた公民的分野の「見方・考え方」の視点で見つめ直します。

カードゲームで持続可能な社会を目指す体験

この教科書を通じて、社会にあるさまざまな課題とその解決を考えていくとき、それらを体系的に学ぶことができるカードゲームが「2030 SDGs」です。

このゲームは、2015年の国連サミットで採択された、多岐にわたる地球規模の課題である「SDGs(持続可能な開発目標)」の17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するゲームです。「なぜSDGsが私たちの世界に必要で、それが存在することによってどのような変化や可能性があるのか」を体系的に理解することをねらいとしています。

ゲームは、自分の行動が世界に対してどのような影響を与えるのかを、現実の世界にならえて体験できるようにつくられています。各プレイヤーは、それぞれ異なるゴールをもちます。お金や時間を使ってプロジェクト(消費、生産、広報などのさまざまな活動)を実行していくと、ゲームの世界の経済・環境・社会の状況は変化していきます。自分たちのゴールと世界の状態を見ながら、全員で2030年の世界をつくっていきます。

ゲームの終了後は、ゲームでの体験や感じたこと、現実での自分の行動を振り返ります。実際の生活の中でも必要なことを、他の人の考えを聞いて、自分で話したりしながら考えます。

現実の世界でも、ゴール(大切にしている価値観)が異なる人々と、私たちはともに暮らしています。こうした違いや世界の状況について、私たち一人一人が考え、行動していく必要があることを、ゲームを通して実感できるでしょう。

身近な暮らしの中で、SDGsへの理解や取り組みへの意識が深まる「カードゲーム」を紹介しています。

カードゲームを体験する生徒たち(2018年)

p.193

3 身近な地域から社会を考えることができる教材・内容

公民的分野の学習では、「地球規模で考えて、地域で行動しよう」という考え方を大事にしています。教科書では、生徒が自ら進んで地域の実態を探り、課題に取り組める工夫だけでなく、地域の伝統文化を大事にしている事例や、多文化共生が進む今の姿を取り上げています。そこから、地球規模の課題へと視点を広げていくことができるようになります。



LOOK! 人々の心象に響く、どこかつかずかして遠くなるような風景を、原風景といえます。近年、各地で起こったさまざまな災害とその復興に際して、改めて地域の美しい自然や貴重な生活文化、伝統行事などが再認識されています。それらを大切に守ることが、復興の原動力にもなっています。

2 伝統文化の継承と文化の創造

グローバル化する社会と日本の文化

伝統文化とは 日本の多くの地域では、夏の高温多湿な気候によって、古くから水田での稲作が行われてきました。稲作では田植えなど、共同体での密接な協力を必要とする作業があり、そこから「助け合い」や「和」の考え方が生まれたといわれています。

このように、長い年月にわたって人々の暮らしの中でつくり、大切に受け継がれてきた有形・無形の文化を、**伝統文化**といえます。伝統文化には、衣食住のほか、あじさつ(あじさつ)の仕方や各地の祭りといった生活文化とともに、能や歌舞伎、茶道や華道、柔道、剣道、大相撲なども含まれます。

多様な地域文化の保存と継承 日本各地では、気候や風土に合った住居や郷土料理、方言などの地域独自の文化が育まれるとともに、個性豊かな祭りや芸能、工芸技術なども受け継がれています。また、歴史的な建造物や町並みなどの史跡、豊かな自然も多くあり、近年、世界文化遺産や自然遺産の登録も増えています。

しかし、過疎化や少子高齢化などの影響により、地域に根づいた

財保護法に基づき、有形、無形の文化財の保護に努めています。私たちが郷土の文化財や伝統芸能、伝統工芸などについて学ぶことは、その地域だけでなく、日本で大切にされてきた先人の知恵や技術、美的感覚などを理解し、それを継承していくことにつながります。

異文化理解と日本文化の創造 世界には多様な文化があり、日本人は宗教と同様に、さまざまな外国の文化を積極的に受け入れ、改良を繰り返しながら独自の文化をつくり上げてきました。例えば、鎌倉時代の僧の茶室が中国から持ち帰ったとされる茶は、寺院を中心にしたいじり(いじり)の文化として、安土・桃山時代に千利休によって茶道として大成され、現代にいたっています。

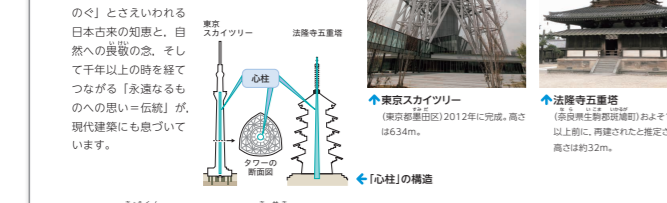
現代では、海外の祭りやパレードなどのイベントが、日本各地で開催されるようになってきました。また、情報化やグローバル化の進展とともに、日本の自然や伝統文化だけではなく、アニメや漫画、ゲーム、音楽、ファッションなどのポップカルチャー(大衆文化)も世界中から注目されています。こうした日本の文化や伝統を大切にすることは、異文化を尊重し理解を深めることにもつながります。海外の人とも積極的に文化交流を図るとともに、私たちは新たな文化を創造し、伝えていく役割を担っています。

読んで深く考えよう

つなげたい、日本の伝統や文化

過去から大切に受け継がれてきたさまざまな日本の伝統や文化は、今も身近なところに息づいて、私たちの暮らしを支えています。こうした伝統や文化を、さらに未来の世代へと受け継いでいくことは、どのような意味があるのでしょうか。

現代建築に生きる、五重塔の「技と知恵」



地域の教訓を語り継ぐ「奇跡の集落」

2011年3月に発生した大地震と大津波は、東日本を中心に多くの人々に被害をもたらしました。そうしたなか、岩手県大船渡市吉浜地区では、津波に被災した祖先の教えを受け継ぎ、低い土地に家を建てないようにしてきたため、被害を最小限に抑えることができました。山を切り崩して高台に住宅を構え、低地で農業や漁業を営んできた吉浜地区のまちづくりは、三陸地方の沿岸部の将来像として構想されている、「離れ分館」にもつながります。

「奇跡の集落」とよばれる吉浜地区にある中学校では、これらも過去の教訓を後世に語り継いでいくために、地区の津波の歴史を劇にしています。明治・昭和・平成の三つの時代に地区を襲った津波の歴史を学び、それをもとに生徒たちが脚本をつくって演じています。



6 アイスの古式舞踊を披露する人々(2017年 北海道札幌市) 8 尚波踊り(2018年 徳島県徳島市) 10 サンバカーニバル(2018年 東京都台東区・浅草) 7 エイサーを披露する人々(2018年 茨城県鹿嶋市) 9 よさこいソーラン祭り(2018年 北海道札幌市) 11 ハロウィーンのパレード(2018年 徳島県川島町)

「カワイイ」や「オタク」、「カラオケ」、「ボクサイ」、「フツン」などの言葉は、海外でもそのまま通じる日本語で、そうした言葉は増えています。

12 日本のアニメや漫画などを広く紹介する「ジャパン・エキスポ」(2017年 フランスパリ)

確認 郷土の伝統文化について学ぶこととはどのような意味があるだろうか、書き出してみよう。

表現 世界に発信したいと思う日本の文化はどのようなものか、理由も含めて意見を交換し合ってみよう。

1. 3. 2. 文化 3. 23

SDGs 持続可能な都市

▲ p.22-23

▲ p.24

good

地域の伝統文化を大切に

地域の伝統文化の現状はもちろん、「なぜ文化が受け継がれてきたのか」、「これからどのように受け継いでいったらよいか」にまで踏み込み、公民的分野の視点で伝統文化のあり方を丁寧に描き出しています。特設ページでは、東日本大震災からの復興と記憶の継承も取り上げています。

▲ p.204

地域から平和なまちづくりを

地域から平和への願いをつなぐ人々の姿に学んだり、地域のために私たち住民ができることは何かを考え、提言したりする特設ページを設けています。よりよい地域の構築に尽くすことの大切さが実感できます。

まちづくりのアイデアを提言しよう

言葉で伝え合おう プレゼンテーション

地域の様子を知り、調査テーマを決めよう

地域の問題を探ってみよう

地域の課題についての情報を収集しよう

川崎市市民オンブスマンの役割

市民からの苦情申し立ては、市役所の有益な情報、問題点の把握に役立ちます。

さらにステップアップ

市民の苦情を調査する審判員代表市民オンブスマン

▲ p.122

▲ p.122

▲ p.122

▲ p.122

▲ p.122

さまざまな価値観や文化とともに生きる

いまだ残る差別の問題や、海外で暮らす日本人と日本で暮らす外国人の姿、さらに世界の民族や宗教をめぐる現状など、さまざまな価値観や文化とともに生きる人々の姿を、多くのページで丁寧に描いています。世界の現状や課題を自分事としてとらえ、考察を深められるようになります。

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

▲ p.204

平和の構築に取り組む人たち

戦争の記憶を語り継ぐ人々

平和への願いをつなぐ子どもたち

さらにステップアップ

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77

▲ p.77